

冬春作イチゴのミヤコカブリダニ放飼によるハダニ類防除

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

1 部門名

野菜 - イチゴ - 病虫害防除

2 担当者

中村 淳・荒川昭弘

3 要旨

イチゴ栽培においてハダニ類は、殺ダニ剤の感受性低下や増殖が早いことから、殺ダニ剤のみによる防除は困難になっている。生物的防除としてチリカブリダニの放飼が有効であるが、より定着性に優れ、夏秋期作で効果が認められたミヤコカブリダニについて低温期における防除効果を検討した。

- (1) イチゴのハダニ類密度が約0.1頭/複葉時に、ミヤコカブリダニ6000頭/10aを11月上旬から3回放飼することで、栽培期間を通じてハダニ類の寄生密度を抑制した(図1)。
- (2) イチゴのハダニ類密度が約1頭/複葉時に、ミヤコカブリダニ6000頭または2000頭/10aを11月上旬から3回放飼した結果、ハダニ類の密度抑制効果に大きな相違はなく、顕著な抑制効果が認められた(図2)。
- (3) ミヤコカブリダニは、花粉等を餌に生存可能であることから予防的に導入することができる。このためイチゴの開花始期(ミツバチ導入時)を目安に、2000頭/10a量を3回程度放飼する。
- (4) ミヤコカブリダニ放飼時のハダニ密度は、低い(1頭/複葉以下)ことが望ましいことから、導入前にハダニ類の発生が見られる場合には、殺ダニ剤を散布するなどして密度低下を図る。
- (5) ミヤコカブリダニ放飼後にハダニ類密度が高くなった場合には、放飼したミヤコカブリダニに対して影響の小さい殺ダニ剤を散布する(主な参考文献・資料参照)。
- (6) 以上の点に留意し、冬春作イチゴにおいてミヤコカブリダニを放飼することによりハダニ類を長期間抑制することができる。

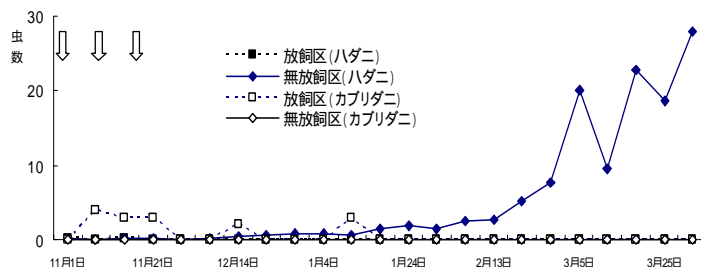


図1 冬春イチゴにおけるミヤコカブリダニ放飼によるハダニ類の防除効果(2007~2008年作)

注1)ハダニ類は雌成虫数/複葉、カブリダニは成若幼虫数/40複葉
注2) はミヤコカブリダニ6000頭/10aの放飼を示す。

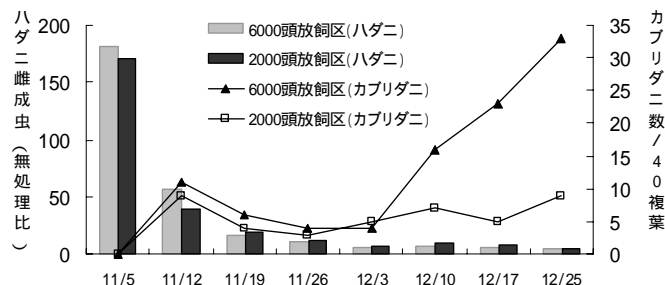


図2 イチゴのハダニ類防除におけるミヤコカブリダニ放飼量の検討(2008年)
注1) 6000頭区は11/5、11/12、11/19、2000頭区は11/6、11/12、11/19の3回放飼
注2) 11/5時点の放飼区のハダニ密度は約1頭/複葉

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成19、20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2007、2008)
- (2) バイオコントロール・天敵に関する農薬の影響表(日本バイオリジカルコントロール協議会)